



げんぱく ひがい 長崎は原爆で、どれくらいの被害を受けたの



たくさんの建物が、こわれたり焼けたりして、
7万人以上の人^なが亡くなったんだよ。

1945年8月9日、人口約24万人の長崎市の北部に投下された原爆は、上空約500メートルで爆発^{ばくはつ}しました。それとともに、大きい火の玉ができて、強い熱線^{ほうしゃせん}と放射線を放射し、まわりの空気が大きくふくらんで、はげしい風^{ばくふう}（爆風）が起きました。この原爆が直接の原因で、その年の終わりまでに亡^なくなった人の数は7万3884人、負傷者^{ふしょうしゃ}は7万4909人と推定^{すいてい}されています。

熱線による被害

爆発から2、3秒間に放射された熱線によって、爆心地^{ばくしんち}（爆発点の真下の地点）から約4キロメートル以内にいた人は、やけどを負いました。特に1.2キロメートル以内で大やけどをした人は、ほとんどが1週間以内に亡くなりました。

爆風による被害

はげしい爆風は、たくさんの建物をこわしました。爆心地から1キロメートル以内では、鉄筋^{てつきん}コンクリートの建物がひどくこわれ、ふつうの建物は、もとの形がわからないほど完全にこわれました。こわれた建物の下じきになり、その後に発生した火災から逃^にげられなくて、焼死した人もたくさんいます。

放射線による被害

人体をつらぬいて、細胞^{さいぼう}をこわす放射線によって、爆心地から1キロメートル以内にいた人は、けが・やけどをしていなくても、ほとんどの人が亡くなりました。生き残った人も、放射線による障害^{しょうがい}で苦しむことになりました。地上に残った放射線も悪い影響^{えいきょう}をあたえ、投下の44日後に長崎市に進駐^{しんちゅう}したアメリカ軍兵士たちも、放射線による障害で苦しむことになりました。